様式第６号の７

学番	５	県立新潟西高等学校

令和５年度　　学校自己評価表（評価）

学校運営計画	
学校運営方針	「立志、叡智、敬愛」を旨に、生徒の夢の実現に向け豊かな人間性を育成する。 ○立志：自らの使命と役割を自覚し切磋琢磨する力を養い、自らの自己実現を果たす。 ○叡智：知性を身につけ、基礎・基本の確実な習得、自学自習や進取創造する力を育成するとともに、文武両道を果たす。 ○敬愛：自他を尊重する心と相互に信頼し合える豊かな心情を養うとともに、礼節をわきまえ、人権意識を備え、自己肯定感を醸成する。

昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
電子黒板やタブレットなどの ICT 機器を活用しての授業が増えた。 課題テストや基礎学力テスト、模擬試験などの結果を分析、共有し、授業にリンクさせることが必要である。 進路指導面では、大学等進学志願率 65.2%、進学達成率81.3%、共通テスト出願率68.2%、大学等進学率59.5%）となった。国公立大学の合格者数は22名（実進学数18名）である。難関私立大学の合格者数１名を加えると3年連続で目標値に到達している。大学等進学率は現時点で59.5%と前年比1.8ポイント増である。共通テスト出願率（前年比3.1ポイント増）以外は概ね前年度比並の数値となった。 Google・classroom を活用し DX 環境にも対応できる進路情報の発信に努めたい。 生徒指導面では、朝の挨拶指導で、自発的に挨拶する生徒が増え、冬場の遅刻者が減少した。基本的な生活習慣の確立について、継続的な指導の成果が表れている。 スマートホンの使用について、通年にわたり指導を受ける生徒が見られた。根気強く継続した指導を行う必要がある。近隣の諸施設や地域の方々よりマナー等についてご指摘を受けた。日常生活の中での指導と人間力の向上を目指した指導が必要である。	教科指導力を高めて、生徒の学力向上を図る。	授業改善を推進する
		基礎学力向上と応用力の育成を図る
	基本的生活習慣の確立を促すとともに、規範意識と社会性を育成する。	生活のリズムを整え、授業に臨めるよう指導する。
		社会の一員としての自覚を促し、マナーやルールを守る規則正しい生活を送れるよう指導する。
	豊かな人間性を育成し、生徒の進路志望を達成させる。	望ましい人生観・職業観・勤労観を育成する。
		生徒の適性にあった進路選択を指導する。
		生徒及び保護者の進路意識啓発に努める。
	行事と部活動を充実させるとともに、施設を整備し、生徒の健康管理に努め、地域・保護者との連携を密にすることによって、学校全体の活性化を図る。	生徒会行事と部活動を充実させる。
		図書館の利用拡大に努めることによって、学習環境を整える。
		生徒の健康管理と学校施設の整備と美化に努め、学習環境を整える。
		ＰＴＡと後援会活動の活性化を図る。
	教職員の働き方改革を推進する。 教職員におけるワーク・ライフ・バランスの浸透を図る。	定時退庁日における定時退庁の徹底を図る。
		業務の削減･工夫等、見直しを進める。 勤務時間のマネジメントを行う。 働き方に係る意識の向上を図る。

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
教科指導力の向上と生徒の学力向上	授業改善を推進する	授業を中心に、教育活動全般を通じて、生徒の「主体的に学びに向かう姿勢」を育成する。電子黒板やタブレット等を有効活用する。	A	A	A
		積極的な授業公開や生徒の自己評価アンケート、教員の授業評価アンケート等を通して、各教員が授業改善に努め、指導力向上を図る。	B		
		教員間で授業の相互観察を推進するとともに、教科担当者の連絡を密にし、組織として教科指導スキルを高める。	A		
		電子黒板などの ICT 機器や Google Workspace を積極的に活用することで、生徒の活発な活動と教師の授業改善を促進する。	A		
	基礎学力向上と応用力の育成を図る	同一科目担当者間で授業進度と指導内容についての綿密な打ち合わせを行い、生徒の学力実態に即した効果的な授業を行う。また、成績不振者に対しても十分な指導を行う。	A	A	
		基礎学力テストの結果分析に基づき、各教科で弱点分野のフォローアップを行う。また、平日講習、長期休業中講習の内容充実により、学習意欲を喚起させ、応用力を育成する。	B		
基本的生活習慣の確立と規範意識・社会性の育成	学習環境を整え、授業に適した雰囲気作りを進める	毎朝生徒玄関で立哨指導を行う。	A	A	A
		各学期ごとにブルーカードの集計を行い、改善を図る。	B		
		スマートフォン等の持ち込みは許可したが、校地内での使用は一切禁止であることを生徒及び教員に周知徹底し、同一基準で指導を行う。	A		
		本校の制服を正しく着用するよう指導する。	A		
	社会の一員としての自覚を促す指導に努める	通学マナー向上のため、ＪＲ駅前で自転車通学路も含め街頭通学指導を定期的に行う。	B	A	
		貴重品・私物・自転車の自己管理の徹底を図るため、個人ロッカーの施錠、自転車のツーロック実施を徹底させる。	A		
		自ら挨拶することや外来者への会釈・声かけができるよう指導する。			

			A		
	いじめ防止に努める	いじめ未然防止のため日頃から生徒の様子に注意を払う。アンケート等を通じ早期発見に努め、事案発生時には迅速・適切に対応する。	A		
豊かな人間性の育成と生徒の進路志望の達成	望ましい人生観・職業観・勤労観を育成する	進路行事（進路講演会・進路ガイダンス・外部講師による講演会・大学見学・大学講義体験、等）を１～３学年合計で10回以上行い、進路やキャリア形成に対する意識啓発を行う。	A	A	A
		平日講習及び長期休業中の講習を計画に沿って実施する。講習履行率の100％達成を目指す。	A		
		学級担任・副担任との個人面談・保護者懇談・三者面談を１人の生徒につき計３回以上実施する。	A		
	生徒の適性にあった進路選択を指導する	生徒や教員が利用しやすい進路指導室・進路資料室づくりをする。	A	A	
		「学びの基礎診断・測定ツール」や外部模擬試験を有効活用し、生徒一人ひとりや学年全体にフィードバックを行う。	A		
		生徒の平日の平均家庭学習時間を１・２年生については１時間以上、３年生の１学期については1.5時間以上になるように指導する。	B		
	生徒及び保護者の進路意識啓発に努める	『進路の手引き』の「資料編」と「活用編」を作成し、LHRや総合的な探究の時間等で、冊子を活用した活動の時間を１～３学年合計で10回以上設ける。	A	A	
		学年PTAや学年通信をつうじて、生徒・保護者に対して進路情報を発信する。１～３学年合計で20回以上行う。	A		
		卒業生合格体験会を実施する。	A		
行事と部活動の充実、施設整備、生徒健康管理、保護者との連携による全体の活性化	生徒会行事と部活動の充実を図る	生徒会行事や部活動を通じて社会性を育成し、同じ目標をもつ生徒同士が人間的に成長するように指導する。	A	A	A
		生徒会行事や部活動を充実させ、生徒の積極性や意欲を高める。	A		
		コロナ禍での経験や発想を生かし、新時代の生徒会行事を協力して作り上げる。	A		
	図書館の利用拡大を図る	図書館利用のマナー指導を徹底する。	A	A	
		広報紙を定期的に発行して、読者層の開拓や利用者の拡大を図る。	A		
		図書館利用の充実を図るため、必要な支援を行う。	A		
	生徒の健康管理と学校施設の整備と美化に努め学習環境を整える	生徒の健康診断、身体測定を円滑に実施する。	A	A	
		生徒の体調不良や怪我に対する適切な対応に努める。	A		
		清掃計画、避難訓練、施設設備の整備・点検を着実に実施し、快適で安全・安心な学校生活と学習環境を維持する。	A		
	ＰＴＡと後援会活動の活性化を図る	ＨＰ等を活用してＰＲ活動を強化するとともに、ＰＴＡ総会と、研修旅行、学年活動への多数の保護者参加を目指す。	A		
		創立50周年事業に向け、後援会活動への理解と協力に一層努めるとともに、保護者全員の加入を目指す。	A	A	
教職員の働き方改革を推進する 教職員におけるワーク・ライフ・バランス の浸透を図る	閉庁日、定時退庁日の確実な実施 勤務時間のマネジメントの実施	時間外の在校等時間の上限、１月45時間以内、１年360時間以内を実現するため、職員朝会等を通じて該当日を確実に周知し、閉庁日、定時退庁日の確実な実施に努める。また、勤務時間のマネジメントを行うとともに、働き方改革に対する職員の意識の向上に努め、業務の削減、効率化についても検討する。	B	B	B
	業務の削減・工夫等、見直しを進める	運営委員会等を通じて行事の精選や業務の整理を検討し、関係各部署とも連携しながら業務の削減・工夫・見直しを図る。	A	A	
学年段階に応じた指導の充実	１年生に対する指導の充実を図る	朝学習や講習を通して、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。 学習と部活動の両立を勧め、総合的な人間力の育成を目指す。（学力向上、学業と部活動の両立）	B	A	A
		コミュニケーション能力の醸成のために、集会や行事など学校生活全般において、話を聞く態度と能力の向上・ICT 利用等による資料の可視化・意思伝達できる場面を増やす。（自立）	A		
		進路講演会や上級学校見学、探究活動を通して､進路への高い目標と広い視野を持たせる。	A		
		学年通信や学年ＰＴＡを通じて、保護者への進路情報の提供と、学年の方針、生徒の様子などをICTを活用しながら情報発信に努める。	A		
		面談等で丁寧な生徒把握に努め、情報を学年団で共有して全員で学年全体の生徒指導にあたることで、いじめの兆候を見逃さない。	A		
		挨拶の励行や返事をしっかりさせることなど、対人関係の基本であるマナーや規範意識の向上を促す。（自律）	B		
	２年生に対する指導の充実を図る	基礎学力の向上を目指し、朝学習、小テスト、再テストの指導を粘り強く行う。平日の家庭学習時間は１時間以上を目指す。	A	A	
		「授業第一主義」のもと授業に集中させるとともに、手帳を活用した自己管理能力を育て、課題等の提出を徹底する。	B		
		卒業後の進路目標を持たせ、実現に向けた模擬試験指導、大学講義体験、小論文指導、総合探究、修学旅行を企画・実施する。	A		
		面談等による生徒把握に努め、学年全体で生徒情報を共有し、丁寧な生徒・保護者対応を心がけ、いじめや不登校の兆候を見逃さない。	A		
		あいさつや身だしなみ、時間を守る、スマホの管理などの基本的な生	A		

		活習慣を学年団で統一して指導する。			
		学年だよりや学年 PTA を通じて、保護者への情報提供に努める。	A		
	３年生に対する指導の充実を図る	家庭学習や授業などの学習の重要性を意識させ、自己実現に向けて継続的に努力させる。	B	A	
		放課後講習や長期休業中の講習を計画的に行い、生徒の学力向上に努める。	A		
		定期的かつ継続的な面談を通じてキャリアプラニングを意識させ、より前向きな学校生活を送るようにさせる。	B		
		学年集会やホームルームでの指導を通じて節度ある生活習慣を継続させる。	A		
		相手を思いやり、いじめや差別のない学級・学年集団作りを行う。	A		
		学年団で情報を共有し、生徒一人ひとりを多くの視点から見て多面的に指導を行う。	A		
成果	別紙参照		A		